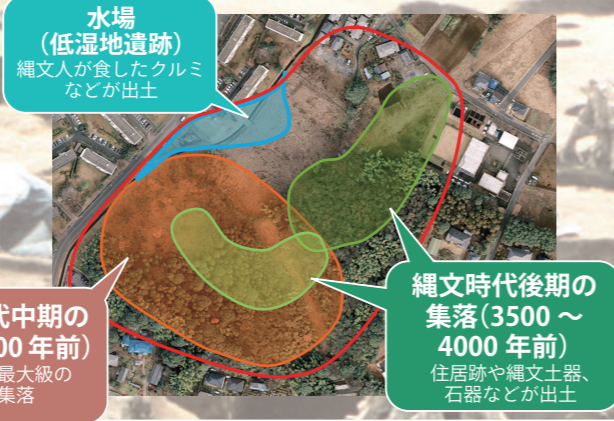


デーノタメ遺跡

デーノタメ遺跡とは、昭和44年ごろ下石戸下地区の雑木林で発見された遺跡です。大きさは全6ha(東京ドームがすっぽり入るくらい)におよび、台地には縄文時代中期(約5,000年前)～後期(約3,500年前)の3つの集落跡が、低地には水場(低湿地遺跡)が残されています。



縄文人の暮らしが見える

デーノタメ遺跡の価値

久保特定土地区画整理事業区域内に位置する「デーノタメ遺跡」。その遺跡が持つ価値について3つの側面からご説明します。

デーノタメ遺跡の
ココが
すごい!

地域資源としても有用

縄文人の暮らしを体験できる史跡公園へ

デーノタメ遺跡が国指定史跡となった後は、さまざまな人たちが訪れることのできる史跡公園として整備します。縄文人の当時の暮らしを学び・体験したり、雑木林の散策を楽しんだりできるような学習や観光の地域資源として有用です。

縄文人の生活を支えた溜池「デーノタメ」を再現する

デーノタメ遺跡の名前は、低地部に存在した溜池・通称「デーノタメ」に由来します。縄文人にとってかけがえのない水辺であった「デーノタメ」の復元を目指します。これを取り囲むエリアは縄文の景観イメージを維持したオープンスペースとして整備し、市民の皆さんが集まる場とすることを検討します。



発掘調査で明らかになった縄文時代の植生を復元する

デーノタメ遺跡の縄文人が実際に食べていたクルミやクリ、トチといった植生の再現を検討します。併せてダイズやアズキの原種が広がるエリアやベリー類の森も整備し、これらを収穫して縄文の食の体験につなぐことも可能になります。



北本のシンボル「雑木林」を活かす

コナラやクヌギといった落葉広葉樹の広がる林は郷土・北本の原風景です。同時にこれは、縄文時代を象徴する景観でもあります。遺跡の整備は、この林の除草を刈り、樹木の更新を行うなどして、今ある雑木林を活かすことを基本とします。

デーノタメ遺跡の
ココが
すごい!

北本の個性としてまちづくりに活用

縄文を学び、縄文を生かす

デーノタメ遺跡という、自然・歴史環境に優れた資源が市内に存在しているのはたいへん幸運なことです。世界的にもユニークな縄文文化を伝える大きな遺跡があることは、北本市の個性に位置づけられます。遺跡は国指定史跡として未来に保存し、地域の歴史を伝えていくとともに、将来のまちづくりに貢献する遺跡として活用することを目指していきます。



デーノタメ遺跡の
ココが
すごい!

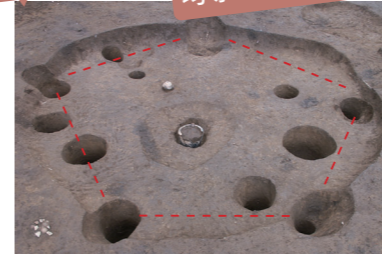
縄文人の生活様式を明らかに

教科書では伝えきれない縄文文化がデーノタメ遺跡からわかる

1,500年間持続した高度な定住社会が築かれていた

発掘された住居や出土した土器などから、デーノタメ遺跡には1,500年間人々が住み続けていたことがわかっています。これほど長期にわたる定住社会が築かれていた縄文遺跡は東日本でも多くはなく、1,500年間という期間も全国的に有名な青森県の「三内丸山遺跡」に匹敵する長さです。

住居の柱を立てた穴が均等に掘られている



竪穴住居の跡(約5,000年前)

儀式に使われた



浅鉢形土器(約5,000年前)

煮炊きや貯蔵に使用



深鉢形土器(約4,500年前)

煮炊きに使用



深鉢形土器(約3,500年前)

縄文時代の環境や食を伝える種実が良好に保存

遺跡の低地部では縄文人が食した種実が豊富に出土しており、当時の食生活や環境変化の解明に繋がる重要な資料となっています。



縄文時代の環境

縄文時代は中期から後期にかけて環境に大きな変化があったとされていますが、詳しいことはわかっていません。デーノタメ遺跡はこの時代の植物が保存されていることから、その謎の解明につながる可能性があります。

約5,000年前の漆工芸技術を解き明かす漆塗土器が出土

遺跡の低地部では、多量の漆塗土器も出土しています。赤色顔料の塊やウルシの花粉も検出していることから、当時はウルシ林を管理し、そこから樹液を採取して漆工芸を担う人々が存在していたと考えられます。



漆塗土器は浅鉢土器の内面に赤と黒の文様を描くものが多い

デーノタメ遺跡は台地の集落と低地の水場が共存する珍しいタイプの遺跡です。この低地には、台地では残存しない植物の実や種、漆土器が豊富に出土しています。これがデーノタメ遺跡の大きな特徴の一つとも言えます。